

# 2019年度法人事業計画概要

社会福祉法人 札幌この実会

昨年度から日中活動の「この実わーくネット」を多機能化し、若い世代を中心とした就労支援事業を西区琴似で新たにスタートさせる一方、既存事業は高齢になってきた人たちを中心に生活介護に切り替えましたが、札幌この実会の取り組みが一人ひとりのライフステージに応じた適切な支援になるよう、2019年度も各事業所がそれぞれに求められる課題に取り組んでいきます。

2017年開設の自主事業、福祉総合相談「みすぐうえる」は、地域における公益的な取組みとして日常の困りごとのお手伝いを行ってきましたが、これまでの実践を踏まえ、2019年度より自主事業としての地域貢献は残しつつ公的な相談支援を始めます。

昨年より「今後の地域の暮らしのあり方」として検討を重ねてきたグループホームの計画は、貸主との協議が合意に達したことから、新築(10月完成予定)の専用の建物を賃借し、11月目処で日中サービス支援型グループホームとして事業を開始できるよう準備を進めていきます。

また、現在、全国的にどの業種も人手不足に悩む状況ですが、福祉の分野でも深刻化しており、必要な人材の確保が難しくなってきています。札幌この実会でも人材の確保と定着を図るため少しずつ働き方を改善してきましたが、より働きやすい環境を目指し職員と力を合わせて取り組んでいきます。

## 1. 理事会・評議員会の開催

理事:6人 監事:2人 評議員:7人

開催月	機 門	主な議案等
5月	理事会	平成30年度事業報告及び決算の承認
		役員候補者の推薦の提案(任期満了に伴う役員改選)
		定時評議員会の招集
6月	定時評議員会	平成30年度事業報告 平成30年度決算の承認
	理事会	理事及び監事の選任(任期満了に伴う役員改選) 理事長の選定
9月	理事会	新規事業の指定及び既存事業の指定変更について(予定)
12月	理事会	2019年度補正予算の同意 評議員会の招集
	評議員会	2019年度補正予算の承認
3月	理事会	2020年度事業計画及び収支予算の同意
		評議員会の招集
	評議員会	2020年度事業計画及び収支予算の承認

## 2. 監事監査について

各理事会前に監事が業務監査及び会計監査を行います。

## 3. 事業指定について

2019年度は、次のとおり、4月から新たに相談支援事業の指定を受けるとともに、短期入所の定員を変更します。また、11月目処で日中サービス支援型共同生活援助の新規指定を受けるとともに、関連する事業所の指定内容を変更します。

### ■2019年4月1日

○相談室みすぐうえる …相談支援事業の新規指定

事業の種類:特定相談支援、一般相談支援

○りらっく(この実サポートステーションすてっぷ) …短期入所事業の指定変更

定員を5名から6名に変更

### ■2019年11月目処

○(仮称)この実うおーるなつ …共同生活援助事業の新規指定

事業の種類:日中サービス支援型共同生活援助

定員:グループホーム19名(2住居) 短期入所1名

○この実らいふネット …共同生活援助事業の指定変更

11住居(定員66名)から、3住居(グループ303、ケアホーム2・6、あいの家)を廃止し、8住居(定員46名)に変更

○この実わーくネット …生活介護事業の指定変更

おりーぶ(従たる事業所)をみんなの家からサテライト2・6に移転

## 4. 事業運営について

2019年度当初の運営事業は次のとおりです。

『この実サポートステーション』

### ■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)約10,300人

(体制)福祉専門職員配置等 常勤看護職員等配置 重度障害者支援体制 食事提供体制  
送迎体制

### ■短期入所事業 りらっく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数)約1,100人

(体制)栄養士配置 食事提供体制

## 《この実支援センター》

### ■生活介護事業 この実わーくネット おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)約10,300人

(体制)福祉専門職員配置等 常勤看護職員等配置 重度障害者支援体制 食事提供体制  
送迎体制

### ■就労継続支援B型事業 この実わーくネット うえるなっつ

(定員)15人 (年間利用者延べ人数)約3,100人

(体制)福祉専門職員配置等 施設外就労

### ■共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)66人 (共同生活住居)11カ所

(年間利用者延べ人数)約22,800人…日中サービス支援型GHへの転居者を含む

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援体制  
重度障害者支援職員配置 医療連携体制

## 《相談室みすくうえる》

### ■特定相談支援事業 相談室みすくうえる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)

### ■一般相談支援事業 相談室みすくうえる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)

## 5. 今後の地域の暮らしのあり方について

この実わーくネットの多機能化により廃止したパック2・5(就労継続支援B型)の跡地有効活用について貸主(朝倉氏)と協議するにあたり、利用者の高齢化が進むなか、これから地域の暮らしのあり方全体を今一度検討し、どこにどんな役割・機能を持たせるかを整理しました。

その結果、サテライト2・6及び隣接地をグループホームから日中活動の場に変更し、併せて地域住民と交流・連携ができる場を作り、また地域生活の拠点機能も持たせる一方、グループホームについては朝倉氏にパック跡地に建築を依頼することになりました。

さらに、このグループホームは、入居者の高齢化、通所の人たちの受け入れ、及び職員体制の課題への対応を考え合わせると、今後も地域の暮らしの支援を継続していくためには、日中サービス支援型グループホームとして支援を行う20名規模の建物も止むを得ないと結論に至りました。

朝倉氏と協議の結果、新築の専用の建物(延床面積約180坪弱)の賃貸借が合意に至り、11月目処で日中サービス支援型共同生活援助事業を開始します。関連して、既存のこの実らいふネット(共同生活援助事業)は3住居を廃止し、この実わーくネットおりーぶ(生活介護事業)は従たる事業所をみんなの家からサテライト2・6に移転します。これにともない、廃止する共同生活住居にある国庫補助を受けた財産の処分の手

続きを行い、また、使用しなくなる古い建物の整理を行います。

今後は、サテライト2・6及び隣接地について、当初の方向性(日中活動の場+地域住民との交流・連携の場+地域生活の拠点)の具体化を図る計画に取り組んでいきます。

## 6. 地域における公益的な取り組みについて

2019年度も次の取り組みを通して、地域のなかで互いに助け合える関係づくりに努めていきます。

### ■外作業班による地域貢献活動

利用者の日中活動の一環として、地域住民の日常生活の困りごとのお手伝いを行います。

### ■福祉除雪

地域の支え合いとして行われている福祉除雪事業の地域協力員として除雪を行います。

### ■退所者に対する継続的支援

グループホームの退所者に対し継続的支援を行います。

### ■介護保険対象外の生活支援

「支援・相談室この実」において介護保険対象外の生活支援を無料で行います。

### ■福祉総合相談

「相談室みすくうえる」において、障がいのある方、高齢の方、そのご家族の困りごとなどを一緒に考え、地域における公益的な活動を目指します。

### ■朝 市

地域に根ざした事業所を目指し、日ごろお世話になっている地域の方々に新鮮な野菜をできる限り安く販売する朝市を開催します。

### ■乗 馬

自然に恵まれた盤渓で、乗馬を通して人や動物とかかわる機会を外部の方々にも提供します。

### ■清掃活動

近隣公園清掃業務を受託するほか、地域やバス停のゴミ拾いも併せて行います。

# 2019年度事業計画の骨子

## この実サポートステーション

### 1. 生活介護事業所「すてっぷ」

サポートステーションは、「働くこと」「楽しみの活動」「家族ケア」「地域とのつながり」の4つの活動を中心に、利用者が仲間とともに安心して活動できるように、一人一人の個性やペースを大切にした支援を行う。

#### ① 「働くこと」

生産活動や創作活動を通して、自分の役割や責任を担い自信を深めることで自立につなげ、また、社会の一員であることを感じてもらえるように支援を行う。

#### ② 「楽しみの活動」

働くことと共に、楽しむことでメリハリのついた生活を送れるようにする。楽しみながら体力の向上を目指したり、心の安定や経験を増やすような活動を提供する。

#### ③ 「家族ケア」

自宅から通所している利用者の在宅生活を続けていくために、必要だと思われるサービスを行う事で家族の負担を軽減し、利用者が家族との暮らしを少しでも長く続けられるように支援する。

#### ④ 「地域とのつながり」

だれもが地域社会の中で自立した人間として暮らす事を目指すため、地域に出て地域とのかかわりを持つことを目指し活動を行う。

サポートステーションが持つ環境資源やネットワークを地域に還元する機会を作る。

### 2. 単独型短期入所事業所「りらっく」

障害児・者を抱える家族の負担の軽減や休息のためのレスパイトを目的として、個室による家庭的な暮らし、家庭の延長のような違和感のない暮らしを提供する。またサポートステーションの利用者を中心として更に外部の利用者の受け入れも積極的に行う。

- ・ 昨年度まで定員を5名で行っていたが、今年度より6名で行っていく。
- ・ 緊急性のあるニーズに対応して、安心してもらえる体制を継続していく。
- ・ つながりのある相談室と連絡を取り合い、外部の利用者の受け入れも増やしていく。

# 2019年度 事業計画書

この実支援センター

## I .この実わーくネット

今年度は秋に開設される日中サービス支援型共同生活援助事業所の開始に伴い、サテライト2・6を生活介護の従たる事業所として活用することになる。サテライト2・6を含めた敷地をどのように活用していくのかを検討しながら、今年度の日中活動を行っていく。

生活介護「おりーぶ」では、秋には開所するサテライト2・6での活動に向けて従たる事業所で新たに下請け作業を取り入れ活動の幅を広げていく。主たる事業所では、「椎茸栽培」を中心に身体を動かす活動を多く取り入れ高齢化が進む中でも、体力の維持や健康の増進に努めていく。

今年度は、生産活動にも力を入れる一方で、体育館を使ってフォークダンスなどの余暇的な活動や、外部の社会資源を活用した余暇活動にも力を入れていく。

就労継続支援B型「うえるなっつ」では、交通の便の良い琴似に拠点を置き2年目となり、施設外就労2ヶ所や道営住宅の清掃、その他作業を通して、就労へ向うスキルを身に付けると共に工賃アップにより意欲の向上を目指していく。

今年度は1名の新規利用者を内定しているが、さらなる利用者確保に向けて、各方面（ハローワークや相談支援事業所、高等支援学校等）にうえるなっつの活動を伝えるなど宣伝活動を行い、新規利用者確保に努める。

## II.この実らいふネット

今年度は、11月の予定で日中サービス支援型共同生活援助事業所「この実うおーるなっつ」を開所する為、

- ・ 集団であっても、利用者一人ひとりに合わせた生活が送れるように、個々のニーズに合わせた支援を行う。
- ・ それぞれの住宅の特色を活かし、それに合った生活ができるように支援する。

以上の2点を目標にグループホームの原点に立ち返り、より良い生活を目指して組み立てを行う。また、安心安全な暮らしを目指し、よりいっそう事故防止や安全管理に努めていく。

# 2019年度事業計画の骨子

札幌この実会 指定特定相談支援事業所

相談室 みすくうえる

平成 29 年 1 月、社会福祉法人札幌この実会の地域貢献自主事業として福祉総合相談「みすくうえる」を開設した。

福祉サービスを利用されていない地域住民（児童から高齢者、障がい者等）の日常の困り事に法人としてお手伝いできる事はないかとの協議の中から地域の駆け込み寺的な発想のもと相談窓口を開設し、2年間の自主事業としての実践の中から、平成 31 年 1 月までの相談数は 28 件程あり、同業者からも一定の評価を得ることが出来たことから更なる今後の展開を考える必要性が出てきた。

社会福祉法人が地域福祉を目指していることから考えれば、相談支援事業所を併設することが当たり前の時代になってきており、札幌この実会としても、これまで行ってきた自主事業との地域貢献の部分は残しつつ、今年度からは、指定特定相談支援事業所（特定相談支援事業・一般相談支援事業）を開設していく、将来的には札幌市委託相談支援事業所を目指していきたい。